

介護老人福祉施設における看護職と介護職の要介護高齢者に対するターミナルケアの取り組み

著者	青田 正子
発行年	2011-03-10
URL	http://hdl.handle.net/10422/471

氏 名	青 田 正 子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 3 8 号
学位授与年月日	平成23年3月10日
学位論文題目	介護老人福祉施設における看護職と介護職の要介護 高齢者に対するターミナルケアの取り組み

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	143	(ふりがな) 氏 名	あおた まさこ 青田 正子
修士論文題目	介護老人福祉施設における看護職と介護職の要介護高齢者に対するターミナルケアの取り組み		
<p>【研究目的】</p> <p>介護老人福祉施設の要介護高齢者に対する看護職と介護職のターミナルケアの取り組みを明らかにすることである。</p> <p>【研究方法】</p> <p>研究デザインは因子探索型研究（質的研究）を採用した。研究対象は、A 地域の介護老人福祉施設で働く研究協力が得られた看護職 7 名と介護職 7 名の計 14 名である。研究方法は、半構成的質問紙を用いて個人面接を実施した。分析は KJ 法の理論で実施した。まず逐語録を作成し、さらにラベル化しそれらのラベルを表札に分類整理し共通する表札を島とし、その島の内容を示すシンボルマークとして概念を表した。</p> <p>【結果】</p> <p>看護職については、102 枚のラベルから最終的に 7 つの島のシンボルマークが抽出された。それらの内容は、1. 【 介護職の専門性を尊重する 】、2. 【 社会で看取る時代 】、3. 【 家族を代行するケア 】、4. 【 ターミナルの段階を理解できず悩む 】、5. 【 慮り苦痛を緩和するケア 】、6. 【 高齢者をトータルに捉えるケア 】、7. 【 最期までその人らしさを大切にするケア 】である。</p> <p>介護職については、149 枚のラベルが取り出され、それらから最終的に 7 つの島のシンボルマークが抽出された。それらの内容は、1. 【 積極的な医療に頼らないケア 】、2. 【 自然な死を看取る 】、3. 【 第 3 者の評価を受ける 】、4. 【 人間としての尊厳を保つケア 】、5. 【 施設職員が家族のような一体感を持つ 】、6. 【 ケアの限界と葛藤 】、7. 【 若い職員の教育・研修の必要性 】であった。</p> <p>【考察】</p> <p>看護職の介護老人福祉施設のターミナルケアとは、【慮り（おもんばか）あきらめないケア】と【自覚的に死と向き合うケア】を目指して介護職と共に、【看護職と介護職の連携のために】姿勢を保ちながら、日々の実践に関る取り組みであると考えられた。介護職は、【人間としての尊厳を保つケア】と【積極的な医療に頼らないケア】を目指して、【ケアの限界と葛藤】を感じながら、【自然な死を看取る】ケアを実践していた。このことから、看護職と介護職は互いの専門性を尊重しながら協働する重要性が示唆された。また今後は、高齢者の増加することが予測されるため、ターミナルケアを担う【若い職員の教育・研修の必要性】に対する取り組みや、実際のターミナルケアにおいて【家族のようなケア】の方法について取り組む事が重要であると考えられた。</p> <p>【総括】</p> <p>本研究は、介護老人福祉施設の要介護高齢者に対する看護職と介護職のターミナルケアの取り組みを明らかにすることを目的とし、質的研究を行った。その結果、看護職のターミナルケアの取り組みは 7 つのシンボルマークが明らかにされ、介護職からは別の 7 つのシンボルマークを抽出することが出来た。そこで、看護職と介護職の互いの専門性を尊重した連携の必要性、若い職員の教育・研修、家族を代行するケアをする必要性が示唆された。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度) 2 ※印の欄には記入しないこと。